

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見(R6年2回目)
				・国際水準のGAPを実践 ◎野菜コースのGAP審査更新 1回 ◎農林大GAPの内部審査 ・スマート農林業の実践 ◎スマート農林業の活用 各コース ・DX活用による効率的な農業の実践 ◎イノベーションファーム運営 2コース ◎KSASサービスの活用 1コース ・六次産業化学習の強化 ◎特別講演会 1回 ◎販売学習 4回 ◎地域等と連携した商品開発 1 ◎地元企業と連携した学習 1企業 ◎販売促進資材の作成 1コース ・有機農業の担い手育成 ◎「有機農業論」、「循環型農業論」 「おおむね満足」以上80%以上 ◎社会人コース 「おおむね満足」以上80%以上 ◎就農率 80%以上 ・プレゼンテーション能力の向上 ◎キャリアデザインⅠ 1年生 ◎学年集会時(1分間スピーチ 3回 ・基礎学力向上 ◎計算力確認テスト 2回 ・学業優秀者の表彰 ◎1年次、2年次、2年間の優秀者表彰	・野菜コース露地野菜専攻で、学生を交えてASIAGAPのリスク検討等、見直しを実施。更新審査に向けて準備。 ・ASIAGAPの更新審査を受検(10/4)、指摘事項4項目の是正報告(11/1)。11/1に更新認証。 ・各コースの校内審査を2月下旬から3月中旬に行った。 ・森林コース高性能林業機械のシュミレーの操作演習を実施(6～7月) ・森林コース UAV(ドローン)操作研修を実施(1回、11月、2年) ・酪農肉牛コース ドローンによる飼料用トウモロコシの薬剤散布を課題研究で取り組むと同時に見学実施(1回、9月、2年) ・農食コースドローン操作研修 (1回、7/4～5:2年) ・野菜コース施設専攻では、複合環境制御技術を活用した施設果菜の栽培実習、2年生の課題研究実施と卒論まとめ、1年生の課題研究内容を決定(1年生:8人、2年生:5人)。 ・花き果樹コース花き専攻では、イノベーションファームで環境に配慮したパラ栽培を実践(天敵及び紫外線を活用し、化学農薬使用回数削減を実践中(殺ダニ剤50%削減)。 ・農食コースでは、KSAS(WEB上の営農 管理システム)を用いて栽培日誌を記録している。 ・特別講演会は「上州百姓米達磨」の山口氏による講義(2/20) ・販売学習 ①花と野菜の即売会開催(1回、5月) ②イオン販売会開催(3回、6月、11月、12月) ③ぐんま青空マルシェ参加(3回、5月、10月、12月) ・規格外ニンジン活用した加工品の開発の課題研究で学生の地元小学校でアンケートをとり、その意向をもとに商品開発を行い学校給食での利用を目指した。 ・農林大産の農産物を使用して東日本調理師専門学校の学生が日本料理を作り、校内レストランで試食をおよび両校の学生同士の交流を図った。 ・農林大PRシールを学生のイラストをもとに作成し、販売袋に貼る等販売促進を図った。(有機JAS認証野菜にも利用) ・鉢花・花苗販売用ケースを作成し販売促進を目指す。 ・「循環型農業論」86%、「有機農業論」76%。学生からのコメントが多いことから注目度の高い講義の一つであることが伺われた。 ・社会人コースに関する評価はカリキュラムが63%、農家研修が100%、実習が50%、就農支援が57%であった。 ・就農率100%(自営就農5人、研修後就農予定5人) ・「特別上映会」を開催。「いただきます～ここが発酵の楽園」を89人が鑑賞し、持続可能農業と食について学んだ。 ・1年生に1分間スピーチ演習を行った。2年生の就職班では発表演習を行い就職活動の一助につながった。 ・学年集会(3回)時に、各コース代表延べ26名がスピーチを行った。事前指導もあり、構成力や伝える力が向上が図れた。 ・基礎学力(計算力)の確認を行い基準点以下の学生を指導した。 ①4月:1年3人、2年3人 ②9月:1年1人、2年1人 ・1年生は3月19日、2年生は3月21日に表彰した。	A B A A B A A	・マニュアルを改善し、次作の栽培に反映させる。 ・校内農業管理規定を定め、農業等の管理徹底を図る。 ・先端技術の知識・技術習得を計画的に進める。 ・直進アシストトラクター等の実習活用を行う。 ・農林大酪農場のIoT機器を導入し実習で活用を予定。 ・野菜コースでもドローン研修を実施する。 ・複合環境制御技術を活用した施設果菜の栽培実習、新2年生(8名)の課題研究実施と1年生の課題研究を検討。 ・イノベーションファームで環境に配慮したパラ栽培を実践(天敵及び紫外線を活用した化学農薬使用回数を殺ダニ剤50%削減、うどんこ病25%削減も目指す)。 ・農食コースでは引き続き、KSASを用いて記録を実施。 ・販売学習会 イオン販売会次年度も実施予定 花と野菜の即売会開催 (5/9) ぐんま青空マルシェ参加 (3回) ・販促資材 切り花出荷販売用ケースの作成 ・次年度も東日本調理師専門学校と連携した授業を行う。 ・粉末化技術の向上と学生の技術習得。 ・次年度も継続して実施。 ・次年度も継続して実施。 ・次年度も継続して実施。	【委員】イオン販売では金額が安いのでもう少し適正金額で売った方がよい。 【回答】学習の場であるので、価格設定の見直しや販売方法の工夫をするような機会にしていきたい。 【委員】循環型農業論と有機農業論については、時代に即した導入だと思う。循環型はこれからの時代に必要だと思う。

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見(R6年2回目)
			・社会生活の基本を身につける	・寮生活を通して規律、協調、思いやりの精神を育む教育の実践 ◎1年次 全員 ◎2年次 原則希望者 ・あいさつ運動の実施 ・メンタルヘルスの実施 ◎入校後面談(5月) 1年生全員 ◎スクールカウンセラーの設置 2回/月 ・生活態度優秀者等の表彰 ◎1年生 各コース1名	・1、2年生を対象に「教育相談のための総合調査(メンタル検査)」を実施(4月)し、個別対応を行っている。 ・担任、コース長が中心となり、学生の日常生活の様子を把握し、農林次長、学科長、教授と情報共有し、必要に応じて、舎監、スクールカウンセラーにつないでいる。 ・登校時における教育棟玄関での声かけ ・新入生の心身の状態、学校生活・寮生活の様子、学習(実習)の様子を把握 および学校不適應による退校防止を目的に新入生面談(4/14～20)を実施(対応職員16人) ・スクールカウンセラーによる支援(4～9月:11回 延べ14名 10～2月:11回 延べ3名) ・舎監推薦及びコース推薦の学生から総合的に決定し3月19日に表彰した。	A A B A	・舎監との情報交換会等を早期に行うとともに、定期的に行う。 ・次年度も継続して実施。 ・職員からの積極的な声かけを行う。 ・生活指導職員による指導(通年)。 ・スクールカウンセラーによるアンケートの実施とそれに基づいたカウンセリングの実施。 ・次年度も継続して実施。	【委員】2年でどのくらい寮に残るか。 【回答】今年度は約70%、来年は約60%が在寮予定。
			・地域、外部機関との連携	・地域貢献等 ◎箕輪城周辺の環境整備 1回 ◎地元小学校との交流 1回 ◎地元マルシェ等への出店 2回 ◎学校給食への出荷 4品目 ◎子ども食堂との連携による食育 随時 ◎森林組合、県職員(森林)との連携 ◎高崎健康福祉大学との共同研究 ・農業技術センターとの連携による害虫発生予察情報(果樹関係)の提供 ・イノベーションファームの活用 ◎視察等受け入れ 10回 ◎農業技術センターとの連携による最新技術の実証と普及 3品目	・箕輪城周辺の環境整備 4回(花壇苗の生産・提供:5月、10月、11月、3月) ・箕輪城まつりに参加(10/27:学生及び職員) ・箕輪小学校5・6年生を対象とした地元区長会との連携によるプランター植え込み指導(1回、10月) ・ぐんま青空マルシェ参加 3回 (再掲) ・子ども食堂へ食材の提供 39回 ・箕郷学校給食センターへ(4月～、キュウリ、キャベツ、ナス、トマト) ・伐倒練習機を活用した林業労働安全研修(森林組合連合会主催)の受入れ(4月) ・UAV(ドローン)操作研修(11月、森林コース2年) ・県新採職員(森林))(再掲) ・学生が取り組む課題研究について共同研究を実施 ・県立学校公仕研修会(総合教育センター主催)の受入れ(8/1:45人) ・4月から週1回のペースで学生が果樹園内の害虫発生状況を調査し、農業技術センターに報告(～10月)	A A B	・箕輪城跡、芝桜公園への花壇苗の生産・提供を継続(4回)。 ・箕輪小学校でのプランター植え込み指導を継続(1回)。 ・ぐんま青空マルシェ参加を継続(3回)。 ・子ども食堂(社会福祉法人食育レストラン)へ食材の安定的な供給。 ・継続して森林組合、県職員(森林)との連携事業を実施。 ・課題研究の取り組みについて、必要に応じて関係機関や大学等の連携を実施予定。 ・次年度も継続予定。 ・随時、視察の受け入れ(イチゴ新品種含む)を行う。 ・調査データを収集し、農業技術センターと共有して栽培技術を実証。 ・中部農業事務所他と連携して紫外線によるバラうどんこ病防除の調査を継続する(みどり戦略学生チャレンジとして)。 ・農業技術センターと連携した「バラの日射比例給液方法」の結果を踏まえ、本校バラ栽培において日射比例給液を実践予定。	【委員】自分は卒業生であるが、当時ハウス1棟の管理を任せてもらった。他の大学ではありえない経験で、今の自分にとってその経験は大きい。
			・教育環境の充実	・DX活用による効果的な学習の実践 ◎学習導入調査 1回 ・ICTを生かした新たな授業方法の展開 ◎高性能林業機械のシミュレーター操作 ・Webによる発表会や就職試験等への対応強化 ◎教育棟のWi-Fi接続 100% ◎農林大スタジオの活用 随時 ・寮における学習環境の改善 ◎Wi-Fi接続 100% ◎冷暖房完備 100% ・キャンパスの環境美化 ◎環境整備の実施 8回	・職員を対象にしたアンケート結果では映像等を用いた授業の導入は10%だった。今後導入してみたい授業方式として関心が高いことが伺われた。 ・シュミレータの操作 6月～7月森林1・2年実習・放課後操作演習、オープンキャンパスで体験会実施。 ・4年度から教育棟教室でWi-Fi環境が整ったことから、インターネットを活用した授業、説明会進めている。 ・農林大スタジオを利用した、WEBによる会社説明会、面接対応が進んでいる。 ・Wi-Fi事業者を、(株)サンライズのSun-Netに変更。不調時の遠隔対応等、サポート体制を充実させた。 ・全校学生による定期的な環境整備を継続(4月～9月:4回)	A A B A A	・次年度の授業にいかす。 ・シュミレータの操作実施予定。 ・授業、課題研究での活用を促進する。 ・進路活動においてWEB説明会、WEB面接を行う企業・大学も多いことから、Wi-Fiや農林大スタジオの活用を推進する。 ・不備がある場合は改善・維持に努める。 ・全校学生による定期的な環境整備を継続。	

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見(R6年2回目)
3	実績の上がる 進路指導 の実行	1 キャリアデザインⅠ・Ⅱ（共通専門科目） 1年次は多様な講義・演習を通じて社会で働くための基礎的な知識を習得する。2年次は就農・就職等の希望する進路に合わせた班別講義・演習等を通じて進路決定のためのスキルアップを図る。 就農班：就農計画作成、資金計画、農業共済制度、県就農支援対策、農業実践者等の講義、就農相談等 就職班：就職活動の心得、面接・グループ討議演習、プレゼンテーション演習等 ※令和6年度進路(卒業生61人)の内訳 就農(雇用就農含む):19人(31%) JA等農林業関係団体:10人(16%) 民間企業:21人(34%) 公務員:8人(13%) 進 学:2人(3%) ※就農率:(森林コース除く)31%、うち雇用就農率47% 林業就業率:17% 2 先進農林家等体験学習 1年次の3月～2年次の9月の期間、26日間の体験学習を通じて、就農・就職(林業)のマッチングをねらう。 3 就職試験受験報告書の作成 4 就職試験直前模擬面接の実施 希望する学生に対し、校長等が面接官となり面接指導等を行う。 5 編入学ガイダンス	(1年生) ・進路希望の把握と 進路指導体制の強化	・進路方向の決定と進路別指導 ◎新入生面談 1回 ◎3者面談 1回 ◎進路希望調査 2回 ・進路ガイダンスによる指導 ◎編入指導 随時 ◎ガイダンス 1回 ・就農・就業の促進 ◎農林業法人説明会 1回 ◎進路内定者報告会 1回 ・マナーアップの促進 ◎マナーアップ講座の開催 1回 ・就農、就業（林業）への支援 ◎先進地等農林家体験学習 2 年 生 5 2 人 社会人コース 1 0 人 ・海外研修への参加誘導 ◎研修制度の紹介 1回 ・農業次世代人材投資資金の活用 ◎就農準備資金説明会 1回 ・緑の青年就業準備給付金の活用 ◎説明会 1回	・新入生の心身の状態、学校生活・寮生活の様子、学習(実習)の様子を把握 および学校不適応による退校防止を目的に新入生面談(4/14～20)を実施(対応職員16人)。 ・キャリアデザインⅠで進路指導(15回) 進路・ライフプランを考える、作文・スピーチ指導、雇用状況・労務管理、ストレスマネジメントなど ・校長面接 (10月) ・進路希望調査(2回、12月・2月) ・コースごとに三者・二者面談を実施(11～1月) ・ガイダンス開催(1回、5月、6人) ・各大学からの情報は随時提供 ・ハローワーク職員による就活セミナー「はじめよう就職活動」(2回(12月、2月)) ・人事委員会による公務員説明会(1回、2月) ・農業法人説明会を開催し、8法人2団体が来校。(9月、1年56人、2年4人) 就農相談ブースでは、卒業生で独立就農した先輩からの話、編入学に関する話を直接聞くことができた。 ・就農支援 農林業法人等説明会(県内9社)(再掲) ・就職支援 ・進路内定者報告会 (1回、12月) ・内定情報の随時更新 ・市内紳士服専門店担当者による講義(1回、2月) ・62人全員終了、平均評価点数89点。 ・体験学習発表会開催(各コース、10月～2月) ・キャリアデザインⅠで制度の説明を行った。農業会議から開催の打診はあったが、希望者がいないので説明会は開しなかった。 ・説明会開催 (1回、4月、17人)。 ・社会人コース2名が申請し承認。 ・説明会4月25日実施、森林1年9名 給付者:2年生1名	A A A A A A A A	・継続して実施予定(ただし、新入生面談の対応職員について検討) ・編入指導及びガイダンスの計画的な開催。 ・早期の就職活動を促進 ・農業法人説明会の計画的な開催(7月で調整中)。 ・就農及び農林業法人等への就職支援のため、関係団体等と連携して、学生と農業法人とのマッチングを円滑に行う。 ・早期の進路指導を継続して実施。 ・学生の進路が多岐にわたる中、本校を卒業し農林業のプロフェッショナルとして社会で活躍できるよう、できるだけ学生の希望や個性に沿った指導を心掛ける。 ・継続して行う。 ・体験学習では、経営者から経営理念や農業に対する思いを直接話してもらう機会の設定を依頼。 ・体験学習のルール遵守の徹底。 ・継続連携 継続して実施。	
				(2年生) ・きめ細やかな進路 別指導 ・就農者、雇用就農者、就業者への支援 ◎進路決定率 100% ◎就農率 40% ◎林業就業率 50%以上 ◎学内企業説明会 1回 ◎農業法人協会、農業業経営士・農村生活アドバイザーとの連携 2回 ◎就活セミナー 3回 ◎面接等演習 4回 ◎就業後の職場定着に向けた取組 1回 ・編入学希望者への支援 ◎ガイダンス 1回 ◎編入学指導 随時	・進路決定率 98%(2月末日現在) 前年同時期 98% ・就農率 31% ・林業就業率 17% ・農業法人説明会を開催し、8法人2団体が来校。(9月、2年4人) 就農相談ブースでは、卒業生で独立就農した先輩からの話、編入学に関する話を直接聞くことができた。(再掲) ・就農支援 農林業法人等説明会(県内9社)(再掲) ・就職支援 ◎面接試験対策として、各コース職員および校長、幹部による面接練習を実施 (随時) ◎キャリアデザインⅡにおいて、面接指導(集団面接演習2回、個別面接演習3回) ◎キャリアデザインⅡにおいて、ハローワーク講師による指導 ◎キャリアデザインⅡにおいて、農業経営士(9月)、農村生活アドバイザー(6月)による講義 ・1年生向け進路内定者報告会開催(1回、12月) ・内定情報の随時更新 ・個別指導 ・随時指導 ・就職支援セミナー開催(1回、2月) ・農食コース(1人)、森林コース(2人)編入学希望者に応募書類作成指導 ・花き・果樹コース(1人)応募書類作成・面接指導を実施。 ・合格者2人(新潟食糧農業大学) ・新2年生向け小論文指導(随時)	C A	・就農班の講義内容の見直し。 ・法人説明会を7月に開催し、2年生のマッチング促進をねらう。 ・進学先の早期決定支援。 ・後期ガイダンス開催予定。	

番号	重点方針	現 状	評 価 項 目	取組内容	経過・達成実績	達成度	次年度の課題と改善策	外部評価委員からの意見(R6年2回目)																																																		
			・専門資格取得教育の強化	・補講の実施 ◎毒物劇物取扱者 30%以上 ◎危険物取扱者(乙4類) 30%以上 ◎農業機械系資格 100% ◎狩猟(わな猟)免許 100% ◎日本農業技術検定2級 30%以上 他	・毒物劇物取扱者 5人名受検で全員合格 100% ・危険物取扱者(乙4類) 受験者数6人 合格者数2人 合格率33% ・農業機械系資格(牽引、大型トラクター) 100% ・農業技術検定 (29.6%) 第1回:受験者 53人 合格者 15人 合格率28.3% 第2回:受験者 28人 合格者 9人 合格率32.1% ・英語Ⅰ(4～7月 12回:受講者13→単位認定11人) ・英語Ⅱ(10～2月 12回:受講者6人→単位認定6人)	B	・農業技術検定合格率の向上、各コースで補講方法の共有化等 ・狩猟(わな猟)免許の予備講習日(予備講習)が榛の木祭開催日が同一であったため、今年度は学生が受講できなかった。 ・共通専門科目「土壌肥科学」の講義内容を、土壌医検定3級取得を目指すことができる内容に変更する。	【委員】衛生責任者の資格が書いてないので疑問に思った。 【回答】農と食のビジネスコース学生に習得を推進している。次年度は推進強化を図りたい。また記載を行いたい。 【委員】土壌医検定が受けられるのは良い。 【委員】わな猟が榛の木祭と重なったとあるが、日程調整できないか。 【委員】現在は県主催ではないので日程調整は難しい。猟具の取扱いに関する予備講習に参加しないと合格率が低くなる。 【委員】簿記3級を持っていると色々な数字に強くなる。雇用者にも経営に携わってもらうことが多くなっているのも必要だと思う。 【回答】1年次の全コース学生に、商業簿記の基礎・基本を身に付けさせている。資格受験は農林業ビジネス学科が必須としている。学生が簿記の大切さを認識するように努めたい。																																																		
4	県民の期待に応えられる研修の実行	1 ぐんま農業実践学校(R6定員:99名) 新たに農業を始める人などを対象に、野菜栽培の基本技術等の習得を支援する。 ＜令和6年度の見直し内容＞ いちごコース(定員5名)を新設 2 農業機械研修 免許取得研修(大型トラクター基礎・けん引研修)、トラクター作業機研修、農業機械安全利用研修、農業機械整備研修、運転技能研修(共催)を実施。延べ900名以上の学生や農業者が受講予定。 3 「農と食のふれあい講座」(公開講座) 一般県民を対象に、農林業への理解や親しみを持ってもらうため、野菜、花、果樹の栽培技術や農業機械の取り扱い、農産加工に関する講座を計9回開催予定。	・多様な研修ニーズに対応した「ぐんま農業実践学校」の運営	・研修生の確保やニーズに対応したコースの充実 ◎研修生の定員確保 100% ◎修了時の就農率 100% 野菜専門技術コース 100% 実践学校全体 90% ◎修了3年後の農業従事率 80%	・研修生の確保やニーズに対応したコースの充実 ◎研修生の定員確保 定員99名 入校者104名(105%) <table><tr><th colspan="5">「ぐんま農業実践学校」入校者状況 (R7.2.20現在)</th></tr><tr><th>コース名</th><th>定員</th><th>応募者</th><th>入校者</th><th>修了者</th></tr><tr><td>野菜専門技術コース</td><td>20</td><td>21</td><td>20</td><td></td></tr><tr><td>有機農業コース</td><td>20</td><td>23</td><td>23</td><td>22</td></tr><tr><td>いちごコース</td><td>5</td><td>10</td><td>8</td><td>7</td></tr><tr><td>野菜基礎技術コース</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>春夏野菜専攻</td><td>22</td><td>22</td><td>22</td><td>22</td></tr><tr><td>秋冬野菜専攻</td><td>22</td><td>22</td><td>21</td><td>18</td></tr><tr><td>トラクター操作講座</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td><td>10</td></tr><tr><td>合 計</td><td>99</td><td>108</td><td>104</td><td>79</td></tr></table> ◎修了後の就農率 (修了時アンケートでの「すでに就農、数年以内に就農」の割合) 有機農業コース 85% いちごコース 43% 春夏野菜専攻 76% 秋冬野菜専攻 76% ◎修了3年後の農業従事率 64% 令和3年度修了者(野菜専門、野菜基礎、推進品目)を対象にアンケート調査を実施	「ぐんま農業実践学校」入校者状況 (R7.2.20現在)					コース名	定員	応募者	入校者	修了者	野菜専門技術コース	20	21	20		有機農業コース	20	23	23	22	いちごコース	5	10	8	7	野菜基礎技術コース					春夏野菜専攻	22	22	22	22	秋冬野菜専攻	22	22	21	18	トラクター操作講座	10	10	10	10	合 計	99	108	104	79	B	・研修生の確保に向けた広報活動の強化 R6年度に改善した、募集開始の前倒し、ぐんま広報への掲載依頼を継続するとともに、次年度からは、報道機関への情報提供や定員に満たないコースでの追加募集を行い、研修生の確保に取り組む。 ・いちごコースの年齢制限見直し 「42歳以下の者」→「原則として42歳以下の者」に変更 ※いちごコースでは、就農準備資金等支援策の対象となる「認定新規就農者」の取得を前提に「42歳以下の者」という年齢制限を設けているが、支援策を必要としない者についてはこの限りではない。 ・修了した研修生に対し、就農状況の確認や営農・就農に向けた支援を強化するため、電子メールでの連絡体制を構築する。	【委員】耕作放棄地があって困っていた。去年の夏以降きれいになっており、話しかけたら実践学校に通っているとのことだった。
「ぐんま農業実践学校」入校者状況 (R7.2.20現在)																																																										
コース名	定員	応募者	入校者	修了者																																																						
野菜専門技術コース	20	21	20																																																							
有機農業コース	20	23	23	22																																																						
いちごコース	5	10	8	7																																																						
野菜基礎技術コース																																																										
春夏野菜専攻	22	22	22	22																																																						
秋冬野菜専攻	22	22	21	18																																																						
トラクター操作講座	10	10	10	10																																																						
合 計	99	108	104	79																																																						
			・県民ニーズに対応した農業機械研修の実施	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 ◎大型特殊自動車免許等取得 155名受講 合格率 100% ◎けん引(農耕限定)免許取得 33名受講 合格率 100% ・スマート農業機械を用いた研修 ◎スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 15回／240名 ・農作業安全研修等の実施 ◎農業機械安全研修の開催回数と受講者数 35回／430名	・農業機械研修の計画的な実施と運転免許の取得 ◎大型特殊自動車免許等取得 155名受講 合格率 100% ◎けん引(農耕限定)免許取得 33名受講 合格率 100% スマート農業機械研修の開催回数と受講者数 15回／195名 農業機械安全利用研修の開催回数と受講者数 43回／508名	A	・計画的な農業機械研修の実施と運転免許の取得支援 大型特殊自動車免許等取得 9回開催 けん引(農耕限定)免許取得 2回開催 ・スマート農業機械を利用した研修を計画的に実施する。 ・きめ細かな農作業安全研修を実施し、事故防止を図る。	【委員】スマート農業の研修を受けたいと思った。 【委員】農業機械安全利用研修は仮払いとかか。 【回答】刈払機や管理機などの機械別の研修以外にも、生産組織等を対象に現地に出て行うものや女性を対象とした研修など、様々な研修を行っている。																																																		
			・農林業に対する理解を深める公開講座の開催	・職員の専門性を生かした講座の実施 ◎公開講座受講生の満足度 評価「おおむね満足」以上 90%以上	ふれあい講座 ・計画した8回の講座を開催 梅加工、刈払い機の基本操作、秋冬野菜づくり、キュウリ・ナスの管理、小型管理機基本操作、果樹整枝・剪定、春夏野菜づくり、花き栽培 合計定員100名のところ、125名の参加者で実施(花き栽培は除く) 評価「おおむね満足」以上 96% ・「菌ちゃん農法」高畝づくり講座を3/13に開催	A	・アンケート結果等を参考に講座内容を検討し、関係者の協力を得ながら「農と食のふれあい講座」を開催する。																																																			